

## 世界史 B 問題

はじめに、これを読むこと。

(注意事項)

1. この問題用紙は 15 ページまである。ただし、ページ番号のない白紙はページ数に含まない。
2. これは、世界史 B の問題である。解答用紙が出願時に選択した科目であるかどうか確認のうえ、解答すること。
3. 解答用紙の所定の欄に、必ず氏名を記入すること。
4. 解答用紙には受験番号が印刷されているので、受験番号が正しいかどうか受験票と照合し確認すること。
5. 解答はすべて「解答用紙」の解答欄に記入またはマークすること。解答欄以外のところには何も記入しないこと。
6. 解答は、必ず鉛筆またはシャープペンシル(いずれも HB・黒)で記入すること。
7. 訂正は消しゴムできれいに消し、消しきずを残さないこと。
8. 解答用紙は、絶対に汚したり折り曲げたりしないこと。
9. 文字は一点一画まで正確に書くこと。
10. 解答用紙は持ちかえらないこと。
11. この問題用紙は必ず持ちかえること。
12. この試験時間は 60 分である。
13. マークの記入例

良い例	悪い例
●	○ × ○





[ I ] 次の文章を読み、空欄(ア～オ)に当てはまる語句を解答欄に記入しなさい。  
また、下線部(1～5)に対応した設問(1～5)に答えなさい。

907年に唐が滅亡して以来、10世紀の東アジアでは、さまざまな地域で政権の  
<sup>(1)</sup>交替が起き、それぞれに独自の文化が発展していった。中国の場合、唐の滅亡後、五代十国分裂時代が50年ほど続いたが、960年、五代最後の王朝、  
ア の將軍趙匡胤が皇帝に即位し、国号を宋(北宋)と改め、開封を都とした。十国のうち最後まで残っていた吳越と北漢を滅ぼして、宋が中国を統一したのは、次の皇帝太宗の治世、979年のことであった。宋代の特徴は、唐末五代の政治体制の基本となっていた イ が文治主義に改められ、文化の担い手が学識ある士大夫階級に移り変わった点にある。宋初二代の皇帝たちは、節度使体制を解体することで地方軍閥の台頭を防ぎ、また従来の科挙制度を整備拡充することによって、以後150年、南宋を加えれば300年以上続く宋王朝の君主独裁制の礎を築いたと言える。

年間の科挙合格者数は、初代太祖の時代から二代太宗の時代にかけて、数十人から数百人の規模に膨れ上がった。その傾向は、続く真宗・仁宗の時代にも、さらに継続された。宋代の科挙試験において特筆すべき点は、地方で行われる州試、中央で行われる省試に、皇帝自ら試験官となって取り行う ウ が新たに加わったことによって、皇帝と官僚の間に強い精神的結びつきが生じたことである。試験の合否決定も官僚への任命も皇帝によって直接行われたため、科挙に合格した者たちの間には、皇帝への忠誠心や「天子の門下生」としての意識が自然と芽生える仕掛けとなっていた。こうして宋王朝の君主独裁体制は、科挙制度の拡充とともにますます盤石なものになっていったのである。

もっとも、仁宗の治世の後半になると、長年続いた西夏との戦いによる軍事費の増大によって国力が疲弊し、また官僚組織の肥大化に伴う国内支出の増大のため、国家財政は赤字に転落することになった。こうした状況を改善するべく、六代皇帝神宗は王安石を宰相に抜擢した。財政再建と富国強兵を目指した王安石<sup>(3)</sup>による改革は、一般に新法と呼ばれるが、その改革は行政・財政・商業・金融・教育・軍制など多方面に及んだ。しかし、新法による急激な改革には、大地主層や大商人層と結ばれた保守派官僚から反発の声があがり、神宗が亡くなると、

司馬光を中心とする旧法党によって新法の大部分は撤廃されることになった。それ以降は新旧両党の対立の時代が長く続いたが、<sup>(4)</sup>頻繁に起こった内部抗争は宋王朝の統治システムを内部から掘り崩す要因となった。特に八代皇帝徽宗の治世になって国政は混迷をきわめ、ついに1127年、女真族の金に首都開封を攻め落とされて北宋は滅亡した。

確かに、宋代の文治主義には、軍事力の弱体化や政治的停滞を招きやすい側面があった。しかし、その一方で、文を重んじ武を軽んじる宋代の時代風土は、学問・思想・文学・芸術の分野における創造的刷新を可能にする絶好の土壤となつた。社会の支配階層として新たに登場した士大夫たちは自由な思索を展開して、諸学芸に新風を吹き込んだのである。文学では、唐の韓愈・柳宗元の古文復興運動を継承した歐陽脩が、四六駢體を排した形式にこだわらない散文を提唱し、その後、この流れを受け継いだ王安石、蘇洵、蘇軾、蘇轍、曾鞏が登場して文壇の主流派を形成した。後世の人々は、これら八人の文豪たちを指して  
工 と呼んだ。歴史学では、司馬光が『資治通鑑』を編年体で著し、儒学では、従来の訓詁学に代わって、宇宙の原理や人間の本性を探求しながら実践倫理を説く新しい儒学思想、<sup>(5)</sup>宋學が誕生した。また美術では、宮廷の職業画家が描く装飾的で写実的な院体画とならんで、士大夫たちが胸中の心境を墨一色で描きあげる  
才 が盛んとなり、工芸では、単色でありながら気品を感じさせる青磁や白磁の生産が各地で行われるようになった。

設問1 下線部(1)にかんする説明のうち誤っているものをひとつ選び、その記号を解答欄にマークしなさい。

- A. モンゴル系契丹人の耶律阿保機によって建国された遼は、かつて「海東の盛國」とも呼ばれた渤海を滅ぼした。
- B. 平安朝の日本では、9世紀末に遣唐使が廃止されて以来、仮名文字や大和絵に代表される国風文化が形成されていった。
- C. 雲南では、8世紀から9世紀にかけて栄えていた南詔が滅亡し、その後大理国が建てられた。
- D. 新羅末期の動乱で台頭した豪族の王建は、慶州を都とする高麗を建国し、朝鮮半島の統一を達成した。

設問 2 下線部(2)にかんする説明のうち誤っているものをひとつ選び、その記号を解答欄にマークしなさい。

- A. 隋の文帝は、門閥貴族の台頭を防ぐために九品中正を廃し、新たな官吏登用法として学科試験に基づく選挙を開始した。
- B. 唐代の科挙制度には、高官の子弟が試験を経ることなく父祖の官位に従って任官できる蔭位の制のような優遇制度があった。
- C. 宋代において、科挙合格者を出した家は官戸と呼ばれて尊敬されたが、それに付随する特権はなかった。
- D. 元代に一時中断していた科挙制度は第四代皇帝の治世に再開されたが、その試験内容は漢人や南人には不利なものだった。

設問 3 下線部(3)にかんする説明のうち誤っているものをひとつ選び、その記号を解答欄にマークしなさい。

- A. 青苗法とは、地主や商人による高利貸しに苦しむ農民に対して、政府が低金利で資金や穀物を貸し付け、収穫時に返済させる政策のことである。
- B. 方田均税法とは、耕地面積を正確に測量し、その土壤の良し悪しに応じて土地に等級をつけて、課税の公平化をはかった政策のことである。
- C. 保甲法とは、均田農民にとって兵役が非常に重い負担となっていたため、職業兵士を雇用した政策のことである。
- D. 保馬法とは、農民に官馬を与えて飼育させ、平時には農耕馬として利用させる一方、戦時には軍馬として徴発した政策のことである。

設問 4 以下の人物のうち旧法党に属さない人物をひとり選び、その記号を解答欄にマークしなさい。

- A. 程顥
- B. 秦檜
- C. 蘇軾
- D. 欧陽脩

設問 5 下線部(5)にかんする説明のうち誤っているものをひとつ選び、その記号を解答欄にマークしなさい。

- A. 陰陽五行説を踏まえて『太極図説』を著した周敦頤は、宇宙哲学の立場から道徳論を基礎づけて宋学の開祖となった。
- B. 周敦頤に学んだ程顥、程顥の兄弟によって受け継がれた宋学は、やがて朱熹によって大成された。
- C. 朱熹にちなんで朱子学とも称される宋学においては、四書よりも五經が重んじられた。
- D. 陸九淵は、宇宙万物を貫く理を重視する朱子学に対して、心の理を重視する唯心論を唱え、後の陽明学に影響を与えた。

[II] 次の文章を読み、空欄(ア～エ)に当てはまる語句を解答欄に記入しなさい。

また、空欄(1～3)に最も適切な語句を下記の語群から選び、その記号を解答欄にマークしなさい。さらに、下線部(1～3)にかんする設問(1～3)に答えなさい。

近世のヨーロッパで、ローマ＝カトリック教会とならんで汎ヨーロッパ的な性格を持っていたのが神聖ローマ帝国である。その成立は962年にさかのぼることができる。オットー1世が教皇ヨハネス12世の救援要請に応えたことでローマ皇帝の冠を受けられたが、これが帝国の始まりとされる。だが、当初は単にローマ帝国と呼ばれしており、神聖ローマ帝国の名称が実際に使用されるのは13世紀半ばになってからである。帝国と称されるものの、統一された中央集権国家とはほど遠く、大小様々な諸侯国や王国のゆるやかな集合体にすぎなかつた。その支配者である神聖ローマ皇帝も、公式には世襲ではなく、アと呼ばれる有力諸侯が選挙によって決定していた。

神聖ローマ帝国は1806年まで続くが、13世紀後半からの30年余り、および15世紀前半から帝国廃絶の時点まで、ほぼ一貫して皇帝の地位を占めていたのがハプスブルク家である。

ハプスブルク家が採用した政策で、結果として版図拡張に寄与したのが結婚政策である。たとえば、皇帝マクシミリアン1世は、息子と娘をスペイン王家と結ばせ、孫と孫娘をボヘミア＝ハンガリー王家と縁組みさせた。そして偶然にも、相手の王家に世継ぎが途絶えた結果、ハプスブルク家は両王家の所領を獲得することになる。このとき、マクシミリアンの孫で、その後スペイン王国を継承し、さらにマクシミリアンの没後、神聖ローマ皇帝にも選ばれたのが1である。当時のスペイン王国は新大陸をも支配する植民帝国として発展中であり、ハプスブルク家がまさに「日没なき世界帝国」の支配者となりつつある時期であった。

1が神聖ローマ皇帝として直面した難題のひとつが宗教改革である。皇帝・旧教派とプロテスタント勢力との間で起こったイ戦争には勝利したが、その後の收拾策のまざさでカトリック諸侯からも反発され、1555年、ア(1)

ウクスブルクの宗教和議を定めざるをえなかつた。

しかしながら、帝国内における新旧両教の対立は、鎮まるどころかさらに激化する。1618年、オーストリアの属領ベーメン(ボヘミア)で、新教徒がハプスブルク家の旧教優先政策に反抗したのをきっかけに、三十年戦争が起こった。最初は信仰を理由とする内戦だったが、時間を経るにつれて様相が変わり、スウェーデン、フランスなどが介入する国際的な政治紛争へと発展し長期化した。フランスのブルボン家には、ハプスブルク家から歐州政治の主導権を奪いたいという思惑があった。三十年戦争は、1648年、ウェストファリア条約が結ばれ終結する。  
<sup>(2)</sup>

ハプスブルク家とブルボン家との確執はさらに続く。1700年、スペイン系ハプスブルク家が断絶したとき、ルイ14世の孫が 2 として王位を継承した。スペインを自国領と考えるハプスブルク家との間でスペイン継承戦争が起こるが、最終的にはブルボン家のスペイン王位継承が認められ、ハプスブルク家はスペイン系の王位と所領を失う。

さらに、神聖ローマ帝国内では、プロイセンがオーストリア(ハプスブルク家)につぐ第二の強国として勢力を増してきた。1740年、神聖ローマ皇帝カール6世が死去し、マリア＝テレジアがハプスブルク家の家督を継ぐと、プロイセンの 3 は ウ に侵入し、オーストリア継承戦争が起こる。プロイセンとともに、バイエルンやフランスも参戦する。他方、ハプスブルク家にはイギリスが加勢した。戦争の結果、マリア＝テレジアは、他家に一時奪われた皇帝位を奪還し、夫フランツを皇帝に即位させることに成功した。さらに、ウ の奪回をめざして、彼女はロシアやこれまで宿敵だったフランスとさえも同盟関係を結んで七年戦争を起こすが、最終的に目的を達成することはできなかった。

さて、長年のライバルであったフランスも大きく変わる。18世紀末のフランス革命およびナポレオンの台頭は周辺諸国に多大な影響を及ぼした。ナポレオンがフランス国内で独裁体制を築きあげ、さらに軍事侵攻によってヨーロッパ大陸の大部分を支配下に置いた。1806年にはナポレオン保護下に エ が結成され、フランツ2世はこれに対抗してオーストリア皇帝を名乗り始めたため、神聖ローマ帝国はここに終わりを告げた。さらに、19世紀中頃からプロイセンを  
<sup>(3)</sup>

中心としてドイツ統一が進むと、オーストリアは生き残り策として、オーストリア＝ハンガリー帝国に改組した。このオーストリア＝ハンガリー帝国は、オーストリアが第一次世界大戦に敗れ、オーストリア共和国の宣言がなされる 1918 年まで存続する。ハプスブルク家が築いてきた多民族国家は名実ともにここで終焉を告げる。

[語 群]

- |                |               |                 |
|----------------|---------------|-----------------|
| A. エカチェリーナ 2 世 | B. エドワード 6 世  | C. カール 5 世      |
| D. フィリップ 4 世   | E. フェリペ 5 世   | F. フェルディナント 1 世 |
| G. フランソワ 1 世   | H. フリードリヒ 2 世 | I. マクシミリアン 2 世  |
| J. メアリ 1 世     | K. ヨーゼフ 2 世   | L. ルドルフ 1 世     |

設問 1 アウクスブルクの宗教和議とそれに至る経緯にかんする説明として誤っているものをひとつ選び、その記号を解答欄にマークしなさい。

- A. ルター派となった多くの領邦君主は、領内の教会を教皇権から独立させ、その保護支配権を掌握了。
- B. フランスはオスマン帝国と結び、神聖ローマ帝国の勢力拡大を阻止しようとした。
- C. 宗教和議では、各領邦の領主および個々の領民に新教か旧教かの宗派選択権を認めた。
- D. カルヴァン派は依然として異端の扱いにとどまった。

設問 2 ウェストファリア条約およびその前段となる三十年戦争にかんする説明として誤っているものをひとつ選び、その記号を解答欄にマークしなさい。

- A. スウェーデンはカトリック国でありながら、西ポンメルンを領有すべく旧教勢力・ハプスブルク家と対決して三十年戦争に参戦した。
- B. 条約は、諸侯が帝国と皇帝に負うべき義務を明確に定めなかったので、神聖ローマ帝国は、名ばかりの存在と化した。
- C. ネーデルラント共和国とスイスの独立が国際的に認められた。
- D. 帝国内の諸侯は、皇帝と帝国に敵対しない限りという条件で、諸外国とも同盟を結ぶことができるようになった。

設問 3 フランクフルト国民議会で提起された、オーストリアを排除しプロイセンを中心に統一国家を形成すべきだとする考え方を何と呼ぶか。解答欄に記入しなさい。

[III] 次の文章を読み、空欄(ア～エ)に当てはまる語句を解答欄に記入しなさい。また、設問(1～6)に答えなさい。なお、設問(3～6)は下線部(1～4)にかんする問題である。

ニクソン： [前略](食器洗い機の方向を指差しながら[写真]) このキッチンを見せたい。カリフォルニアの家庭にあるのと同じだ。

フルシチョフ：わが国にもある。

ニクソン： これは最新型だ。これは何千もの家庭のキッチンに据え付けられているものだ。アメリカでは主婦の家事を楽にしたいと…。

フルシチョフ：わが国では女性に対して資本主義国のような考え方ではない。



Photograph by William Safire, *New York Times* website, July 23, 2009

ニクソン： 女性に対する姿勢は万国共通だと思うが。わたしはわが国の主婦がもっと楽になるようにしたい…。この家は 14,000 ドルで買えるし、たいていの退役軍人は 10,000 ドルから 15,000 ドルで家が買える。わかりやすい例を挙げよう。ご承知かと思うが、わが国の鉄鋼労働者は今ストライキをやっている。だが、鉄鋼労働者の

だれもがこれくらいの家を買える。時給 3 ドルの稼ぎでだ。この家は月約 100 ドル、25 年から 30 年のローンで買える。

フルシチョフ：わが国でも鉄鋼労働者や農民は 14,000 ドルで家が買える。アメリカの家は建築業者が新しい家が売れるように建てるので、結局 20 年しかもたない。わが国の家は頑丈だ。子供や孫の代までもつ。

ニクソン： アメリカの家も 20 年以上はもつ。それでもアメリカ人の多くは新しい家や新しいキッチンを欲しがる。キッチンが古臭くなると…。アメリカ式は新しい発明や新しい技術が利用できるようにデザインされているから。〔後略〕

(The Kitchen Debate URL:<http://www.TeachingAmericanHistory.org> より訳出)

この会話は 1959 年 7 月 24 日、モスクワで開催されていた「アメリカ博覧会」のキッチン展示場で繰り広げられた、ニキータ・フルシチョフとリチャード・ニクソンの、いわゆる「キッチン・ディベート」の一齣である。これは当時のソ連共産党第一書記とアメリカ合衆国副大統領が、共産主義と資本主義のそれぞれの社会経済体制のもつ優位性を、報道陣の前でぶつけ合った想定外の出来事であった。

ソ連が原子爆弾を保有するようになり、続いてスパートニクの打ち上げにも成功<sup>(1)</sup>したことで、米ソ両国はその後、核兵器開発と宇宙開発が重なりあって、熾烈な競争を繰り広げた。米ソを軸とする東西の冷たい戦争は、トルーマン大統領によるギリシャとトルコへの経済援助の表明、それに続く一連の手段を用いた共産主義勢力に対する [ア] 政策に端を発していた。<sup>(2)</sup>ソ連もこれに呼応してコミニストルームを組織し、また東欧諸国などと [イ] を組織して経済的結びつきを固めた。しかし、フルシチョフはそれまでの外交政策を転換し、西側陣営との平和共存路線を打ち出した。「キッチン・ディベート」は、こうした米ソの間での緊張緩和の機運に乗じたものであった。しかし、米ソの接近はソ連と中国との間の<sup>(3)</sup>対立を深めるように導いた。フルシチョフは [ウ] 危機への対応や農業政策の失敗などから 1964 年に指導者の座をブレジネフらに奪われた。一方、ニクソ

ンは1960年の大統領選挙では敗れたが、1968年の大統領選挙でベトナム戦争に深入りしたジョンソン政権を批判して当選した。ニクソンは対外政策を大きく転換させて再選されたが、1974年に エ <sup>(4)</sup> 事件の責任を取って辞職した。

設問1 「キッチン・ディベート」でニクソンが自慢したアメリカの労働者家庭の豊かな暮らしぶりは、1920年代に始まった。1920年代アメリカの経済や文化にかんする説明として誤っているものをひとつ選び、その記号を解答欄にマークしなさい。

- A. 第一次世界大戦中の経済動員に協力した労働者の権利も拡大され、女性の貢献も女性参政権の成立という形で報いられた。
- B. アメリカは繁栄を謳歌し、1924年には労働不足を解消するため東欧・南欧からの移民受け入れを拡大した。
- C. 急速な工業化を背景に、ベルトコンペアを利用して大量に生産し大量に消費する大衆消費社会が到来し、一般家庭にも自動車、洗濯機や冷蔵庫などの電気製品が普及していった。
- D. 1920年にはラジオの定時放送も始まり、ハリウッド映画は大衆娯楽の支柱のひとつに成長するとともに、アメリカ的生活様式をヨーロッパや日本にも伝えた。

設問 2 「キッチン・ディベート」でのフルシチョフの応答とは裏腹に、ソ連の一般労働者の生活に電化製品が普及するのは遅れていた。ソ連の経済政策にかんする説明として誤っているものをひとつ選び、その記号を解答欄にマークしなさい。

- A. レーニンは農民から食糧を強制的に徴発し、同時に工業の国有化を推し進めた。しかし、強制徴発に不満をもつ農民の反乱が全土に拡大した。
- B. レーニンは強制徴発制を止め、小規模な私企業の経営を容認する方針に転換し、これが新経済政策(ネップ)と呼ばれるようになった。これにより農民の生産意欲が刺激され、経済は第一次世界大戦前の水準に近づいた。
- C. スターリンは、ネップに代わって農業の集団化を開始し、重工業優先の第1次五カ年計画に着手した。しかし、これによって農業・農村の荒廃も進んだ。
- D. フルシチョフは、第1次五カ年計画が完了する前に、消費財生産にも配慮するとした第2次五カ年計画に着手した。しかし、国際情勢の緊迫化で重工業・軍需工業に重点が置かれた。

設問 3 下線部(1)にかんする説明として誤っているものをひとつ選び、その記号を解答欄にマークしなさい。

- A. ロケットは第二次世界大戦中にドイツの科学者らによって兵器として実用化されたが、ソ連は人工衛星を開発することによって核兵器の使用範囲を格段に広げることができた。
- B. アメリカに続いてソ連も原子爆弾を開発し、その後1960年代までに核爆弾の保有を公表した国はイギリス、フランス、中国へと拡散した。
- C. 先に開発した5カ国だけに核兵器の保有を認める核拡散防止条約の締結や、この5カ国による第1次戦略兵器制限交渉の調印で、核軍備管理体制も進展した。
- D. 原子力の平和利用も進められたが、アメリカではスリーマイル島原子力発電所で、ソ連ではチェルノブイリ原子力発電所で重大な事故が発生した。

設問 4 下線部(2)のコミニフォルム(共産党情報局)はアメリカの世界戦略に対抗して、ソ連と東欧 6 カ国、西側 2 カ国の共産党・労働党で結成された。この西側 2 カ国の組み合わせで正しいものをひとつ選び、その記号を解答欄にマークしなさい。

- A. フランスとイタリア
- B. イタリアとベルギー
- C. ベルギーと西ドイツ
- D. 西ドイツとフランス

設問 5 下線部(3)の中国の対ソ批判の背景には、中国の経済建設の行き詰まりがあった。中国の経済建設にかんする説明として誤っているものをひとつ選び、その記号を解答欄にマークしなさい。

- A. ソ連の援助を受けながら第 1 次五カ年計画に着手し、重工業に重点を置きながら農業の集団化を進めた。
- B. 第 2 次五カ年計画では、工業や農業の急速な発展を目指す大躍進運動が進められた。
- C. 都市や農村で生産活動、行政や教育などの活動を一体化した組織として人民公社の建設が進められた。
- D. 大躍進運動は大失敗に終ったため、毛沢東は劉少奇に国家主席の座を譲った。

設問 6 下線部(4)のニクソン政権の対外政策にかんする説明として誤っているものをひとつ選び、その記号を解答欄にマークしなさい。

- A. ベトナム戦争の泥沼化に直面したアメリカは対外政策の再構築を余儀なくされ、ニクソンはソ連との対立を強めていた中国を訪問して共同声明を発表し、事実上、中国を承認した。
- B. アメリカの国際収支赤字やベトナム戦争による膨大な軍事費はドル危機を引き起こし、ニクソン政権が金とドルの交換停止を発表したことで国際通貨体制は大きく動搖した。
- C. 大統領選挙中にベトナム戦争からの「名誉ある撤退」を掲げていたニクソンは、戦火をインドシナ全域に広げながらも、ようやくパリ和平協定を成立させて米軍は撤退した。
- D. スエズ運河の国有化に対して、ニクソン政権はアスワン・ハイ・ダム建設資金の供与を拒絶し、また英・仏・イスラエルがエジプトに侵攻した。

[IV] イギリスとロシアの両帝国は、19世紀から「グレート・ゲーム」ともよばれる勢力圏の拡大・獲得競争を行ってきたが、1907年には英露協商を結ぶにいたる。この時期に英露の接近をうながした国際情勢の変化と、英露協商でアジアの国・地域について両者が合意した事柄を、180字以上240字以内で説明しなさい。なお、解答は横書きとし、カッコや句読点は1マス1文字に数え、また数字やアルファベットを用いる場合には1マス2字とする。











